

自転車を入れる

目的のラックの左右に自転車が詰まっても大丈夫。

左右の自転車を手で押して、空間を作ってください。



通常は片手で移動できます。

重たかったり、自転車が乗っていないラックの場合は、
足でラックを蹴ってください。

この時、移動先で他の人が使用していないことを確認して下さい。



ラックに対し自転車を一直線に置きます。



前輪をラック手前に合わせ、
自転車を押し上げます。



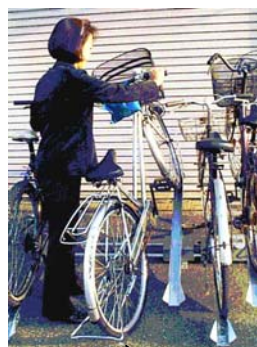
後輪がラックに上手く乗り上げるように注意しながら



そのまま前進して、自転車の前輪をラックの前輪受けに入れます。



前進する際にラックが左右に動いてしまうことがあります。
その為、後輪がラックにうまく乗り上げなくなった場合、
前輪をそのまま所定位置まで押しこんでから、後輪をラックに
持ち上げて、正規の駐輪状態にして下さい。



ラックが右に
流れちゃった



でも慌てずに
前輪を入れてし
まいましょう



後輪を持ち上げて
っと。



ラックに載せて
ハイ、完了。

通路スペースが狭く、自転車をラックに対し一直線に出来ない場合。
ラックは軽く動くので、斜め方向から直接入れようとすると逃げてしまいます。

前輪はラックに対し同一線上を向く様に、ハンドルを保持して下さい。



自転車は両手でハンドルを持つより、図の様に左手はハンドルに、右手はサドルの後ろを持つ方が安定します。



自転車を押し込みながら、前輪でラックを引く様にすれば回転して、楽に駐輪することが出来ます。



後輪がラックに乗ってしまえば片手でサドルを押します。



自転車を取り出す

自転車を入れる時と同様、左右の自転車を移動させて空間を作ります。

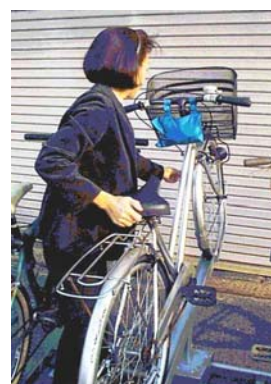


ハンドルが隣の自転車と絡んでいない事を確認して、サドル又は、後輪荷台等を持ち、手前に引いて下さい。



自転車を入れてから

- ・盗難防止の為に自転車にロックをかけましょう。
前輪フォークに取り付けてあるロックも、空間があるため簡単にロックできます。
- ・チェーンロックを掛けるときは、ラックの横穴をご利用下さい。
- ・少し左右に動かして見て異常の無い事を確認して下さい。
- ・スタンドは上げたままにして下さい。



注意事項

- ・自転車を駐輪する目的以外では使用しないで下さい。
- ・レールの上に触れると靴等が汚れる場合があります。
- ・一度に多くの自転車を移動させる場合は、ゆっくりと動かして下さい。
勢いをつけると思わぬ事故が発生する恐れがあります。
- ・自転車の形状によって、計画どおりのスペースが確保できない場合があります。
組み合わせにより改善できることもありますので、ラック位置を譲り合って下さい。
- ・自転車のタイヤの空気圧は常に正常にして下さい。
特に前輪の空気圧が減っていると、チューブを痛める可能性があります。
- ・自転車が起立するように、前輪は下図のように奥のケージにきちんと収めて下さい。



メンテナンスについて

スラークはメンテナンスフリーです。

ただし、ユニットカバーにぶつかる時の金属音を低減するために、クッションを貼り付けております。クッションゴムは環境により劣化しますので、金属音が気になりだしたら、張替えが必要です。(シールを貼る要領で簡単です)

溶融亜鉛メッキ仕様の場合は、さび難く、またたとえ一部に錆が発生しても、亜鉛により錆の進行を抑えられる特徴があります。しかし長年使用し続けると、錆が回り強度低下を引き起こす恐れがありますので、錆を発見した場合は、塗装による防錆対策を実施していただくと、より長く快適に使用していただけます。